

# 国語科学習指導案

I 単元 討論会をやってみよう！

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

## ①知識及び技能

自分や友達の主張やそれを支える根拠の関係付けの仕方に関する知識及び、それを討論で用いる技能

## ②思考力、判断力、表現力等

説得力のある話の内容や構成を考え、論題に対する主張やそれを支える根拠を用いて計画的に討論し、自分の考えを広げる力

## ③学びに向かう力、人間性等

自分や友達の話の内容や構成について、進んで友達の考えを聞きながら、聞き手を説得するために主張やそれを支える根拠を用いて話し合おうとする態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(2) 情報の扱い方に関する事項

イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くこと(1)

オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

(3) 単元の価値

本単元では、説得力のある立論の内容や構成を考えながら、自分の立場を明らかにして話し合う、討論の学習を行う。その価値は以下のとおりである。

討論とは、ある論題に対し、二つの立場に分かれて意見を述べ合うという、話し合い方の一つである。本単元においては、5～6人で編制されたグループ同士で立場を入れ替えながら模擬討論や討論会を行う。この討論には、限られた時間の中で「立論－質疑応答－最終弁論」という形式に沿って、話し合いを進めていく話し手と聞き手が存在する。そして、それとは別に、討論を聞いて最終的に説得力のある立場がどちらであったかを判定する中立的な聞き手が存在する。討論における話し手は、聞き手を説得する立論を述べるために、客観性のある根拠や、より共感的に受け止められる根拠に支えられた主張を用いたり、複数の観点から主張やそれを支える根拠を並べ立てたりすることが求められる。また、話し手は相手の立場から見た聞き手でもあるため、相手の意見を聞き、互いの主張やそれを支える根拠についての妥当性を考える力も求められる。

本単元においては、討論会に向けて、グループの友達と協力して、それぞれの立場に合った主張やそれを支える根拠の妥当性について検討する。よって、自分や友達の主張やそれを支える根拠の関係付けの仕方に関する知識及び、それを討論で用いる技能を身に付けることにつながる。

グループで行う討論は、様々な立場における聞き手となる機会が多いため、論題に対する自分たちの考え方とは異なる様々な考え方に触れることになる。また、説得力のある立論を事前にグループの友達と検討したり、討論の形式に沿って話したりすることが求められる。よって、説得力のある話の内容や構成を考え、論題に対する様々な主張やそれを支える根拠を用いて計画的に討論し、自分の考えを広げる力を高めることにつながる。

本單元においては、模擬討論や討論会で、一貫して同じ論題について立場を変えながら2回ずつ討論する機会がある。そのため、自分たちの主張やそれを支える根拠の質の高まりを実感しやすい。よって、自分や友達の話の内容や構成について、進んで友達の考えを聞きながら、相手を説得するために主張やそれを支える根拠を用いて話し合おうとする態度を養うことにつながる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「聞き合って考えを深め、意見文を書こう」(『未来がよりよくあるために』)における、自分の考えと比べながら友達の考えを聞き、未来をよりよくするための考えを広げたりまとめたりして、意見文を書く学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、5年「学習発表会をしよう」(『すいせんします』)において、5年生の学習の成果を家族に伝えるための発表内容や発表形式について話し合っ、実際に家族を招待して発表会を行う学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本單元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 5年生の学習内容を知らない家族に、学習してきたことを分かりやすく伝える話し方に気付き、提示する資料に載せる情報と発表内容に入れる情報とを関係付けて話すことができるようになってきている。このような子どもたちが、自分や友達の主張やそれを支える根拠の関係付けの仕方を検討する際の手掛かりとして、「いつでもそう思える」「多くの人がそう思える」の視点を得ることができるよう、具体的数値や主観的な考えが入った立論原稿のモデルを使って、説得力のある立論の書き方について話し合う機会を設定する。
- ② 5年生で学習してきたことよきや成果を伝える話題を選び、グループごとに発表内容や発表形式を検討し、効果的に伝える構成を工夫して話すことができるようになってきている。このような子どもたちが、自分や友達の主張やそれを支える根拠の関係付けの仕方を検討することができるよう、主張やそれを支える根拠を書いた付箋紙を貼って動かせる、討論の流れボードを用意する。
- ③ 5年生で学習してきたことを家族に伝えるための発表内容や発表形式について、グループの友達と進んで話し合いながら相手や場を変えて、繰り返し発表の練習をすることができるようになってきている。このような子どもたちが、グループの友達と協力して、論題に対する二つの立場で進んで話し合うことができるよう、同じ論題についての模擬討論や討論会において、同じグループの中でも立場を変えながら主張や根拠を話す機会を設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習(6/9時間目)

- 1 ねらい 他のグループからもらった判定カードを用いながら、グループの友達と立論の改善策を話し合うことを通して、グループの立論の内容や構成をより説得力があるものに修正することができる。

- 2 準備 振り返りシート 学習計画表 判定カード 討論の流れボード 付箋紙 立論プリント  
 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの立論の内容がまとまっていない気がしたのだったな。</li> <li>・根拠のはっきりした主張に直したいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題の解決状況を確認できるよう、前時に書いた振り返りシートを読み直すよう促す。</li> <li>○立論を修正することへの問題意識をもてるよう、学習計画表を基に、本時のめあてを問いかける。</li> </ul>
<p>めあて「より説得力のある立論になるよう、グループで話し合っ、主張と根拠を修正しよう」</p>	
<p>2 グループや自分の立論の内容や構成を修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主張の三つ目の「給食はおかわりができる」はたくさん食べたい人にとっては共感できるけど、そうでない人は納得しなそうだって教えてくれたのだったな。この主張は変えた方がよいのかな。</li> <li>・そうか。あのグループみたいに栄養バランスの話の続けて伝えるという手もあるのか。でも、できれば三つとも違う主張がしたいな。</li> <li>・「栄養バランスがよい」を2回主張するより、友達の言ってくれた「温かいうちに食べられる」を自分たちのグループの三つ目の主張として書き直しておこう。</li> <li>・「栄養バランスがよい」の根拠は、「赤・黄・緑の食べ物が全部使われていること」が書けるよね。</li> <li>・資料を見たら、「食事バランスガイド」というのがあったよ。給食のメニューをこれに当てはめたら、すごく栄養バランスがよいと分かるよ。</li> <li>・この「食事バランスガイド」のことも根拠にしたら、より「多くの人がそう思える」立論になりそうだね。</li> </ul> <p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主張や根拠を修正したら、より説得力のある立論になったな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○客観的な判断を基に、グループの立論の修正点を再認識できるよう、模擬討論を行った相手のグループからももらった判定カードを見直し、同じグループの友達と修正の方向を確認するよう促す。</li> <li>○立論で述べる三つの主張の順序に着目して検討できるよう、討論の流れボードに貼ってある主張の付箋紙を動かしながら検討しているグループを紹介する。</li> <li>○検討して修正したことを明確にできるよう、主張を書き直すための付箋紙を用意し、その付箋紙を用いているグループを称賛する。</li> <li>○主張とそれを支える根拠の関係付けの仕方に着目できるよう、根拠が書かれた付箋紙を、主張を書いた付箋紙の近くに貼るよう促す。</li> <li>○複数の根拠を基に立論を検討できないグループに対しては、複数の根拠に目を向けられるよう、根拠の基となる資料を参照するよう助言する。</li> <li>○説得力の高まりを自覚できるよう、「いつでもそう思える」「多くの人がそう思える」の視点で主張と根拠の関係付けの仕方を見直すよう促す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">討論の流れボードの付箋紙を動かしたり足したり、自分の立論を記述し直したりしている。        &lt;討論の流れボード・立論プリント②&gt;</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習の成果を実感できるよう、「できたこと」「考えたこと」「次に頑張りたいこと」の視点で振り返りシートを記述するよう促す。</li> </ul>

指導と評価の計画（全9時間）

目標	説得力のある立論の内容や構成を考えながら、自分の立場を明らかにして計画的に討論し、自分の考えを広げることができる。		
評価 規準	(①知識及び技能)主張やそれを支える根拠の関係付けの仕方として、客観性の高い立論を用いて話し合っている。 (②思考力,判断力,表現力等)主張やそれを支える根拠の関係付けの仕方を検討したり,説得力のある立論の内容や話す順序を考えながら討論したりして,自分の考えを広げている。 (③主体的に学習に取り組む態度)友達の話す内容に興味をもって聞いたり,自分の立場に合った客観的な立論を用いたりして,進んで話し合おうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つか かむ	1	○討論モデルを基に感想を話し合い,学習課題をつかむ。 学習課題例:説得力のある立論になるように主張や根拠を考え,討論会をやってみよう。	○「立論－質疑応答－最終弁論」という討論の形式や主張を支えている客観性のある根拠に気付けるよう,討論モデルを原稿の形式で提示する。
ふ か め る	1	○論題に沿って主張できそうなことを考え,討論会で扱う論題をクラスで一つに決める。	○生活経験や学習経験を基に,論題に対する様々な考えがもてるよう,三つの論題を提示し,それぞれの立場で主張できそうなことを書き留める付箋紙を用意する。
	1	○立場に応じて主張する内容を決め,グループごとに立論を考える。	○主張やそれを支える根拠の関係付けの仕方についての手掛かりを得られるよう,具体的数値や主観的な考えが入った立論原稿のモデルを使って,客観的な立論原稿の書き方について話し合う機会を設定する。
	1	○考えた立論を基に,模擬討論を行う。	○グループの中で手分けをして,自分の立場に合った客観的な立論を話せるよう,自分の主張を書いた付箋紙を貼って示すことができる討論の流れボードを用意する。
	1	○模擬討論を基に,課題点を話し合う。	○説得力のある立論についての客観的な判断を得られるよう,「いつでもそう思える」「多くの人がそう思える」の視点が入った判定カードを用意する。
	1	<b>○課題点を基に,立論を修正する。(本時)</b>	○修正したい主張と根拠の内容や構成を,より説得力のあるものに修正できるよう,討論の流れボードに貼り替えるための付箋紙を用意する。
	2	○修正した立論を基に,討論会を行う。	○討論の形式(立論－質疑応答－最終弁論)に沿って自分の立場に合った客観的な立論を話せるよう,司会進行シートを用意する。
ふ り か え る	1	○討論の学習を通して身に付いたことやできるようになったことの振り返りをし,感想をまとめる。	○学習の成果を実感できるよう,討論会の様子を撮影したビデオや視点「討論のよさ」を基に,学習したことを記述する振り返りシートを用意する。
			評価項目<評価方法(観点)>
			◇討論モデルから気付いた,討論の構成の特徴や説得力のある主張,根拠の伝え方の工夫に触れた感想を記述している。 <学習プリント③>
			◇論題について,両方の立場で主張できそうなことを複数記述している。 <付箋紙③>
			◇話し合っ分かった書き方や,「いつでもそう思える」「多くの人がそう思える」の視点に照らしながら,客観性の高い立論を記述している。 <立論プリント①>
			◇決められた討論の形式に沿って,自分の立場に応じた発言をしている。 <発言③>
			◇「いつでもそう思える」「多くの人がそう思える」の視点に照らしながら自分たちや他のグループの立論の課題点を発言したり記述したりしている。 <発言・判定カード②>
			◇討論の流れボードの付箋紙を動かしたり足したり,自分の立論を記述し直したりしている。 <討論の流れボード・立論プリント②>
			◇決められた討論の形式に沿って,自分の立場に応じた発言をしている。 <発言③>
			◇説得力のある立論の内容や構成を用いて討論できたことや自分の考えの広がりについて記述している。 <振り返りシート②>